

しおさい



東通村の稲刈り風景

【主な内容】

- 特集記事「シリーズふるさと見聞録」：稲崎
- 「明日へのかけはし」：りらくすmama東通
- 「ファイト!わんぱく」：尻労小学校 陸上部
- クローズアップ「こんにちは元気さん」：東南歌謡クラブ 会長 加藤 兼作さん
- 「地元の特派員レポート」
 - 畑中 佑斗くん
 - 津花 望さん
 - 川上 勇定さん

vol.4

平成19年12月発行
東北電力(株)東通原子力発電所

シリーズふるさと見聞録

東通村29の集落の特徴的風物や人物を探る!



稲(いなざき)崎

住民が協力し合う
まよまりある地域

津軽海峡に面した河岸段丘の上に、西風を防ぐようにできた集落が稲崎です。かつては関根浜から岩屋の浜までを「稲崎浜」と呼ぶなど、古くから漁業の盛んな集落です。

大正時代には稲崎・雲崎神社が建立され、隣には龍神様も祀られているほか、以前境内にあったイタヤの木には無数のこぶがあり、それをなでれば乳が出ると、隣の集落からも女性たちが訪れたそうです。

昭和40年頃まで集落は浜沿いにありましたが、危険地区に指定されたため、現在の高台に集落移転しました。

基幹産業は漁業で、昔は昆布をはじめ「磯もの」だけで暮らすことが出来た豊かな海に恵まれていました。現在は定置網による鮭や底建網によるヒラメなどが多く捕れます。

世帯数18戸と小さな集落ですが、昭和40年代までは捕った魚を浜からみんなで担いで運んだり、近年では集会所の建て直しにも住民が互いに協力し合って取り組むなど、とてもまとまりのある地域です。



稲崎地区の若手後継者
みくに ふみひこ
三國 文彦さん(45歳)

野牛漁協で魚の販売に携わっています。稲崎は底建網で活ヒラメが捕れ、やはり活魚は甘くて旨いです。

稲崎には若い漁師もあり、祭りやスポーツなど積極的に参加して地域を盛り上げています。

稲崎・褒崎神社の御神体は、いたひ
下北で初めて発見された中世の板碑

大正8年に建立した稲崎・雲崎神社の社殿に御神体として祀られている、高さ156cm、幅45cm、厚さ15cmの輝石安山岩きせきあんざんがんでできた板碑。表面には阿弥陀如来を示す梵字*が彫られており、下北で初めて発見された中世(鎌倉時代～室町時代)の供養碑です。

その文字は、毛筆風で曲線的に描かれているのが特徴で、石材は下北半島のほか、弘前や深浦、市浦など、「西ノ浜」を中心に分布しているが、具体的な採取地点は不明とされています。この石碑は、当時、下北を治めていた安藤氏もしくはその一族が先祖供養のために造らせたのではないかと推測されています。

稲崎では、漁に来た石持の人が持ち帰ろうとしたところ、動かなくなったためここに安置したと伝えられています。



稲崎・褰崎神社の社殿



御神体の板碑

※梵字
古代インドの文語であるサ
ンスクリットを書くために
考案された文字



底建網漁師
すぎもと ただみ
杉本 忠美さん(65歳)

底建網で、年間を通じてヒラメ、タコ、アブラメ、ソイなどを捕っています。稲崎の海は暖流と寒流がぶつかり合い潮の回りも早く資源が豊富なので、いろんな魚が捕れます。ここに生まれて良かったと満足しています。65歳になったので世代交代して全部息子に漁を任せました。今年はイカ釣り船も購入したので、来年から底建網とイカ釣りの両方で頑張つて欲しいと思います。

稲崎を 訪ねよう

海の幸に恵まれ、
みんなで協力し合う
小さな集落

尻屋崎と大間崎の中間、小さな岬にある集落が稲崎です。部落会を中心に、春は龍神様で大漁祈願、秋は褒崎神社の大祭を行い、親睦を深めています。年代を問わず、まとまりのある少数精鋭の集落で団結力もあります。私が今日まで地区の会長をやって来れたのは皆さんの協力のお陰であり、大変感謝しております。今後は後継者を育てて若い人に頑張ってもらい、集落をもっと盛り上げて行きたいと思います。

稲崎部落会長
あおきみつひこ
青木光彦さん(63歳)



稲崎・褒崎神社

稲崎の豊富な海の幸、山の幸を美味しく食べてもらおうと、昭和51年から民宿、平成8年から旅館を営んでいます。ここは玉の海。様々な魚介類が採れるほか、錦石も見つけることができます。また、しけのあとは「タラシネ」も寄ってきます。あたりにはガマズミ(シヨミ)も自生し漬物やジュースにすれば最高です。稲崎は自然のものでおもてなしができる、素晴らしい地域です。



ガマズミ(シヨミ)



旅館「稲ヶ崎」女将
さとう えいこ
佐藤 栄子さん(69歳)

新潟で生まれた父がイカ釣りでこの地に来て住み着き、漁師になりました。私は、その2代目漁師で、30歳から定置網漁をしています。若い頃は「コンブモウニ」も豊富に捕れ豊かに生活していました。今年は春にヤリイカが大漁でしたが、今秋は鮭が少なくて残念です。でも息子が漁師を継いでくれたので、みんなで力を合わせて頑張っています。



定置網元として鮭を捕る
さいとう いさむ
齋藤 勇さん(78歳)

明日への かけはし

りらくすmama東通

みんながやりたいことを一緒にやってみよう！

子どもがいても自分の時間を作り、みんながやりたいことを一緒にやってみようと、村内に住む20代から40代のママで結成されているのが、「りらくすmama東通」です。

「りらくすmama東通」は、昨年結成され、現在の会員は7人。これまでに集落の散策やパソコン講習、手打ちそば作り、村内で開催している「海の市 山の市 里のふれあい市」への参加などを行ってきました。

今年は「花くずら」の材料、作り方などをセットにした「花くずら作成キット」作りに取り組んでいます。



会長の大舘千加子さん

東通村に古くから伝わる「花くずら（べこ餅）」を作ろうと思っても材料はどこで手に入れないという若いお母さんの声に呼んで挑戦することにしました。

先日行われた講習会では、先生から手ほどきを受け、写真や文章でわかりやすく作り方を記録していきます。会長の大舘千加子さんは「お餅の微妙な柔らかさや手の感触を言葉にするのは難しいけれど、花くずらが出来て、真ん中から切った時の気持ちは最高でした。来年の2月頃までにはレシピと材料を合わせた試作品を完成させたい」と話します。



先生の話真剣に聞く会員の皆さん

そして「りらくすmama東通」は現在、会員を募集中。「若いお母さんが元気になるれば、家庭も明るくなり、子どもたちもすくすく育ちます。様々な活動を通して、いつかは村の活性化にも繋がりたい。まずはみんなと一緒に、やりたいことに挑戦してみませんか」と呼びかけています。



講習会の先生
にほんやなぎてるみ
二本柳照美さん



出来上がった
花くずら



ファイト! わんぱく

尻労小学校陸上部

全校生徒10人全員が陸上部として頑張っているのは、尻労小学校陸上部です。結成は学校創立と同時で、その歴史は100年以上前にさかのぼります。部員は少人数ながら、元気で明るくアットホームな雰囲気です。

練習は佐藤幸憲先生指導のもと、準備運動、ランニングを行った後、スタートダッシュ、バトンの渡し方、長距離を中心とした走り込みを行います。

8月31日、東通小学校で行われた東通

村小学校陸上競技大会では、キャプテンで6年生の川端愛美さんと、6年生の吉田亮太さんが力強く選手宣誓を行いました。川端さんは「みんな走るのが大好き。応援も頑張ります」とにっこり。

村民マラソン大会で優勝し、この大会（村小学校陸上競技大会）で4位の成績を残した5年生の川上篤矢さんは「負けて悔しい。もっと練習して来年は絶対優勝したい」。佐藤先生は「日頃の練習の積み重ねが大切なんだと子供たちが感じてほしい」と話していました。

キャプテンの
かわばた めぐみ
川端愛美さん



選手宣誓を行う川端愛美さんと吉田亮太さん



東通村小学校陸上競技大会で力走する川上篤矢さん(左)



元気さん

歌で地域にパワーを与えたい!

東南歌謡クラブ会長 加藤兼作さん(55歳)

村内で元気に活動する人を紹介する「こんにちは元気さん」。今回は歌で地域の活性化をはかろうと頑張る、東南歌謡クラブ会長の加藤兼作さんにお話を伺いました。

加藤さんが会長をつとめる東南歌謡クラブは、平成7年、東通村の南側にある御神楽の団体・老部敬神会と白糠に住む歌好きの人が集まって結成されました。「それまでは1人で県内外の歌謡大会に出場し賞をたくさん獲得しましたが、おつ市で歌の活動をする知人にすすめられ、1人よりみんなで歌いたい、歌で地域を活性化させたいと思い、会を作りました」と加藤さん。

メンバーは30代から40代の17人。加藤さんの自宅に集まって歌の練習をしているほか、地域のイベントへも協力しています。

老部盆踊り大会では、子どもと大人の踊りの合間に歌謡発表会を開いて場を盛り上げ、南地区の集会施設では平成8年からカラオケ選手権大会を開催し県内各地から参加者を集めています。

また、今年の夏は白糠漁協の港来フェスティバルでステージ部門の運営を任せられ、ゲストを呼んだり、婦人会の踊りの進行や歌を唄ったりと、メンバーが一体となって尽力。東通村のよさこい宵祭ではチャリティーの北半島歌祭カラオケ選手権大会を独自に運営し、地域の人たちに喜ばれています。

年会費は3000円。「少ない会費でのイベント運営なので、広告などを集めるのに苦労しますね。それに私たちの会は比較的若い人が多いから、学校のPTAなどと行事がぶつかり、打合せなどの日程調整が大変です。でも地域の人が協力してくれるので、イベントの運営もみんなで楽しく行うことができます」。

やはり嬉しいのは地元の人たちに喜ばれること。「地域の人から頼りにされれば『やねばね』という気持ちになるし、歌を通して世代間交流出来

るのがいい。それに1人で歌うよりも、みんなで歌えばお互いにアドバイスもできるし、もっともっと上手くなれると思うのです」。

思い出に残る大会は平成14年、県の選抜歌謡大賞で準優勝に輝いたこと。「あの時は涙が出るくらい嬉しかったなあ」と振り返ります。

歌を唄いステージに立つと「スターになったようないい気分。歌を通して仲間を増やし、地域活性化の手助けにもなれば、これほどいいことはない。結成して12年。今後は原点に戻って定例会を開き、楽しみながら歌でメンバーの輪を広げていきたい」と話していました。



2007よさこい宵祭で吉幾三北限海峡カラオケ大会で審査員を務める加藤さん(写真左)



盛り上がった大会の様子



歌の練習をする会員と加藤会長



東南歌謡クラブメンバーのみなさん

東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

古くから伝わる 入口の祭り

ぼくは入口の祭りについて、氏子総代の氣仙忠一さんから聞いて調べました。

入口の祭りは、少なくとも昭和26年(56年前)には、もう盛んになっていました。青年団主催で行っていて、始めは、浜の船を利用していました。それを見兼ねた、部落会の方々が今の新しい船を進呈して下さいました。

ぼくは始め、浜の船を利用していましたが、心優しい方々は心優しい人だったんだなあと思いました。

新しい船を作ったのは昭和54



部落会で造った船

東通村入口在住
東通小学校(6年)
はたなか ゆうと
畑中 佑斗さん(11歳)



年、建造費は船体だけで約70万、幕・かざりなどで約80万で計150万円もしたそうです。これでもとてもまけてもらったそうです。

ぼくは、とても値段が高かったのにおどろきました。

次にどんな神様が船に乗っているのかを調べた所、入口は漁業が盛んな集落なので、「恵比須」様と「大黒」様だそうです。昔

は今と違って毎年引っ張っていませんでした。

ぼくはこの祭りがいつまでも続けばいいなあと思いました。



氏子総代の
氣仙忠一さん

私の好きな 古野牛川



私の住む古野牛川地区は、漁師さんの多いところ。野牛漁協では地まきでホタテを育てているので、身も大きくとても美味しいのが特徴です。

また、目の前に広がる津軽海峡ではイカが豊富に捕れます。夜になるときれいな漁り火が見え、その光は船によっていろいろな明るさがあり、とても幻想的です。それは、まるで漁師さん達の気持ちを表すかのようにキラキラと輝いています。

10月9日、10日には、地域のみんなが大漁や豊作を祈願する祭りが行わ



今回の達人

ホテルニューグリーン
「天天美食城」

料理長

きくち ゆたか
菊池 豊さん



●プロフィール
むつ市出身。東京とむつ市内での修行を経て、昨年ホテルニューグリーンへ。懐石・日本料理を得意とする43歳。

東通産カボチャ「二球入魂」を使った そぼろあんかけ(4人分)

〈材料〉(4人分)

カボチャ1/8、豚挽肉200g、水200cc、水溶片栗粉・サラダ油適宜・天ぷらの衣・酒適宜

◎調味料／みりん40cc、濃い口醤油40cc、砂糖小さじ2

〈作り方〉

- ①カボチャを7mm位の厚さに切って、天ぷらの衣を付けて揚げます。
- ②油をひき、挽肉を酒で炒めて水と調味料を加え、水溶片栗粉でとろみをつけてあんを作ります。
- ③あんをカボチャの上にかければ出来上がり。

達人がつく



達人の
ワザ

カボチャはしっかり揚げ、衣は厚くつけないようにして「一球入魂」本来の甘さを引き出しましょう。



東通村古野牛川在住
つばな のぞみ
津花 望さん(22歳)

れました。私は、子どもからお年寄りまで参加し、祈願する伝統の祭りが、次の世代へと受け継がれることを願いながら見ていました。

古野牛川は、都会のように発展してないけれど、豊かな自然に囲まれたところです。私は温かみのあるこの地域が大好きです。



写真は特派員が自ら撮影したものです。



東通村裏部在住
かわかみ ゆうだ
川上 勇定さん(62歳)

部落の 守り神について

私は部落を見守る八幡神社について調べてみました。裏部は戸数23戸、神社は裏部川を渡った高台にあり、氏子総代は部落会・青年会の三役で取り仕切っています。神社の行事は、春祭、秋祭、正月に行われます。

部落には獅子頭6体と御神体があります。御神体は左手に弓、右に手綱を持ち、矢を背負って馬に乗った木造のお姿です。

昭和5年生まれの大津藤七さんに、御神体の影を見た話を聞きました。大津さんは16歳頃、友達と2人で雀を取ろうと遊んでいると、ガザガザ音がするので見上げると、笹藪から右手にタラボ(タラノメの木)を持ち、左手を差し出しながら山から下りてくる影を見たそうです。このことを、川で洗濯していた中村誠之助さんに話して神社に行ってみると、神社の戸が30cm位あって、白い風呂敷をかぶり、上の着物は

はかすりのようで、腰から下は影だったそうです。

昭和54年、当時青年会長をしていた私は、部落内の母親から息子の体が思わしくないで御神体を見て欲しいと相談があり、部落会に話して見に行ったところ右手に負傷があり、私はその時初めて御神体を見ました。そして、田名部神社へ相談に行き、修復してお色直しが出来上がると、部落では熊野権現様を持って迎え祈禱舞をして神社に納めました。その後、息子さんも回復したそうです。

部落の人にとって関わりの深い神社の御神体。これからも大切に守っていきたいと思います。



八幡神社



御神体をお色直しし神社に奉納する青年団



御神体を祈禱し神社へ奉納



大津藤七さん

る 簡 単 料 理

東通産秋鮭を使った
秋鮭のソテーきのこの
味噌バターソース(4人分)

〈材料〉(4人分)

秋鮭半身、無塩バター50g、まいたけ100g、えのきだけ100g、しめじ100g、アスパラ3本、ピーマン1個、レモン1/2個、だし汁200cc、白味噌80g、醤油小さじ2、小麦粉・塩コショウ少々

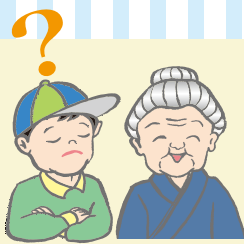
〈作り方〉

- ①鮭を3cm位の厚さに切り、塩コショウで味付けし、小麦粉をまぶしてフライパンで焼き取り出します。
- ②フライパンにバターとまいたけ、えのきだけ、しめじ、アスパラ、ピーマンを入れて軽く炒め、だし汁、白味噌、醤油を加えて味を調えます。
- ③秋鮭に炒めたきのこなど盛りつけて、レモンをのせて完成。

達人の
ワザ

きのこなどに味付けしているので、鮭に振りかける塩コショウは少なめにと美味しくできます。





地元の皆さんは
すぐわかるよね

問題

■東通村(下北地方)には、いろいろな方言が残っているよ。
右記の①～⑤までの方言を考えてネ。
○に入る言葉を並べかえると、今回も東通村のある
集落名になるよ。
さて、どこでしょう?

- ① 子どもたち
○ ら ○ ど
- ② 見栄っ張り
○ り ○ ぎ
- ③ ごちそうになる
○ ば ○
- ④ 元気な
き ○
- ⑤ 取り戻す
○ つ ○ す

応募方法

★折り込みの応募ハガキにクイズの答え、氏名、年齢、住所、電話番号そして当広報誌「しおさい」についてのご意見、ご感想をお書きの上、ご応募ください。正解者の中から抽選で10名様へ素敵な景品をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は景品の発送をもってかえさせていただきます。

〈応募締め切り／平成20年1月31日(木)消印有効〉

前回(Vol.3H19年6月発行)の答え

い ち り こ や でした。

- ① 一回に物事を成そうとすること い つ き も つ き
- ② だだをこねる こ ん ぼ ぼ る
- ③ あわて者 ち ゃ つ か し
- ④ ひっくり返る と っ く り け る
- ⑤ わけがわからない や じ ね

多数のご応募ありがとうございました。

読者からの声

vol.3に皆さまからたくさんのご意見、ご感想をお寄せいただきました。
大変ありがとうございました。

- 特派員レポートでは蒲野沢「法林寺」が取材されていました。お寺では「オーイ」と叫ぶと返事が返ってきます。住職『ガンバレ』(蒲野沢在住 Mさん)
- 「しおさい」のネーミングは優しい響きでステキです。この「しおさい」は小冊子なのに中身が濃いですね。スタッフの方々のご苦労が伺われます。私は料理が大好きですから、達人のレシピは助かります。これからも美味しい料理のレシピをお願いします。(白糖在住 Iさん)
- 今回のファイト!わんぱくのコーナーに老部小学校のミニバスケットボール部が掲載されていたので興味深く拝見させていただきました。(白糖在住 Aさん)
- 「しおさい」を読んで今さらながらこんな方言もあったかと思わずおかしくなりました。今回は孫と二人で考えました。「明日へのかけはし」など次回を楽しみにしています。(白糖在住 Aさん)

- 東通村に生まれ育ち住んでいます、いまだに行ったことのない集落がたくさんあります。「しおさい」を見て、東通村にある伝統や風物をあらためて知ることができ勉強になります。方言も普段使っているはずなのに・・・いざ!クイズを考えるとなかなか思い出せないものですね。カラー写真がとても見やすく、知っている人も写っていることもあり、これからも「しおさい」発行を楽しみに待っています。(砂子又在住 Mさん)
- この「しおさい」は、地域に密着していて楽しく読めました。(砂子又在住 Sさん)
- 東通村の方言がクイズでいろいろと分かり楽しいです。次回の表紙の絵がどんなものになるのか楽しみにしています。これからも頑張ってください。(向野在住 Kさん)

広報誌「しおさい」についてのご意見・ご感想をお待ちしております。

編集後記

早いもので第4号の発行となりました。毎回発行するたびに皆さまからどのようなご意見が届くのか楽しみにしております。

今回から、クイズの解答や貴重なご意見などを気軽にお寄せいただけるよう、応募ハガキを折り込みました。

多くの皆さまの声を今後の広報誌づくりの参考とさせていただくため、気づいたことや感じたことなど何でも結構です。ぜひ、ハガキにご記入いただきお送りください。

今後とも、広報誌「しおさい」をご愛読くださいますようお願いいたします。

発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糖字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について

★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音(しおさい)のように、皆さまの心に末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。



この冊子は、環境にやさしい「植物性大豆油インキ」
「古紙配合率100%再生紙」を使用しています。